

## 「スリーコード伴奏法」の導入と成果

～豊富なレパートリーの為の取り組み～

### Introducing the ‘Three Chords Accompaniment Method’ Implementation and Results

～ Expanding the Repertoire of Children’s Songs ～

山崎 祐子

YAMAZAKI Yuko

キーワード：こどものうた、弾き歌い、コード

Keywords: children’s songs, singing and playing, chord

「こどものうた」の弾き歌いを、従来のピアノ演奏の延長ではなく、他の演奏分野と位置付け、「スリーコード伴奏法」を取り入れて実践を重ねたところ、良好な成果を得ることができた。「スリーコード伴奏法」の実例を挙げ、考察と成果をまとめた。

#### 1. はじめに

平成 28 年に実施された保育学科のアンケートの集計結果から、学生が「ピアノ技法」「器楽（ピアノ）」の授業を通して身に付けたいと望んでいる事は、主に次の 4 項目である事が分かった。

- ・園児の方に目を向けながら、ピアノを弾けるようになる。
- ・園児に声を掛けたり、一緒に歌いながら弾けるようになる。
- ・止まらずに弾く。
- ・「こどものうた」のレパートリーを増やす。

ここから汲み取れることは、学生は卒業後を見据え、園児の前で子供の歌の弾き歌いを行う際も、常に園児の様子を見ていなくてはならないと理解しており、その為のより実践的な方法を探ろうとしていることである。

保育現場での弾き歌いは、朝のあいさつの歌、季節や行事の歌、お昼の歌、帰りのあいさつの歌等々、一日で、数曲に上る。そして、四季の変化に応じて歌は次々と替わり、音楽発表会や生活発表会なども加えると、一年間で数十曲のレパートリーが必要になる。

一方、近年は、ピアノの学習年数が比較的短く、ピアノ演奏に必要な読譜にもあまり慣れていない学生が多い傾向が見られる。

ピアノを弾くとはそもそもどういう手順で行われるのだろうか。通常は先ず楽譜を用意し、音名、リズム等の様々な情報を読みながら弾いていくのである。音楽はノンストップで進んでいるから、読譜もノンストップでなければ間に合わない。初見（初めて見る楽譜をすぐに

弾くこと)で弾ければ問題はないが、そうでなければ練習を何度も繰り返すしかなく、そのための時間と労力が必要になる。また、ある程度スムーズに読譜できるようになる為には、少なくとも数年を要すると考えられる。

これらの課題をクリアし、しかも個々の実力に合わせて弾き歌いの手法を、今日の時点で改めて考える必要があるのではないか。それは、シンプルで覚え易くしかも柔軟で、演奏する側はもちろん、聞く側にとっても利するところの大きな方法にしたいと考えた。河原田潤氏は「弾き歌いのレパートリーはできるだけ効率良く短い時間に弾けるようになればそれに越したことはない。どうしたら自分に合った手法を見つけられるのか、学生一人ひとりが模索しながら見つけていく過程も、指導をする教員が共に考え、実践を通して獲得していかなければならない。」と述べている。

このような経緯から取り組みを始めた弾き歌いの一手法について、事例を挙げると共に考察を進めていく。

## 2. 調査方法

調査内容：本学保育学科 2 年次の授業内容とその成果

対象学生：平成 28 年度担当学生

調査期間：平成 28 年 4 月～同 29 年 1 月の授業期間

## 3. 調査の内容と「コード伴奏」の有用性

保育学科「器楽（ピアノ）」科目の主な目的は、「こどものうた」弾き歌いのレパートリーをできるだけ多く作ることである。しかし、ピアノに対する苦手意識や自信の無さから、レパートリーをなかなか増やせなくて、悩んだり困ったりするケースもある。

その原因の一つは、読譜に時間が掛かり過ぎる点である。読譜のスピードを上げる練習もとても大切であるが、短期間で十分な効果を上げることはなかなか難しい。

そこで従来の「両手共全て読譜をしながら弾く」方法から方向転換をして、「より少ない読譜で弾く」方法を模索し、「コード記号」を利用する奏法を弾き歌いの伴奏部分に取り入れた。

### a. コード伴奏とは

コード（和音）伴奏は、和音を C, D, E, F, G, A, Gm, 等の記号に置き換えて表したコード記号を見ながら伴奏を弾く伴奏法である。従って楽譜にコード記号が記してあれば、その記号が示す和音を基に伴奏を弾くことができる。熟練すれば大変便利な方法である。

### b. コード伴奏のメリット

- ①左手の譜読みが不要なので、練習時間を短縮できる。
- ②左手は各コードの固有の和音を弾くので、手の形で覚えることができる。
- ③基本のコードを覚えれば、次のステップとして伴奏部分を変奏していくことが可能である。  
徐々に自分の演奏技術に見合う即興的な伴奏ができるようになり、応用の幅も広がる。
- ④コード奏法は音楽の理論にも合致した大変合理的な奏法である。コード伴奏法を学ぶことは、すなわち和声法を学ぶことであり、ピアノ曲等の他の音楽への理解にもつながる。

コード伴奏法の最大のメリットは、読譜をしなくても和音を弾けることである。本来、理想の伴奏は、その歌の作曲家によるオリジナル伴奏であろう。作曲家は、通常和声法に基づ

いて作曲していくので、美しい伴奏は美しい和声から生まれると言ってよい。従って、「こどものうた」であっても、和声の移ろいを伴う和音による伴奏（分散和音も含む）が望ましいと考える。

和声感のあるピアノ伴奏に日々接することで、和声の移ろいの美しさを体感し、音楽に対する感性を育てていく。これも「こどものうた」の重要な役割の一つである。

#### 4. 「スリーコード伴奏法」の準備

##### a. 「スリーコード伴奏法」の‘スリーコード’を覚える

まず初めに、ピアノを弾く上で最も初歩的なハ長調の歌を取り上げた。使用するコードはC、F、G<sub>7</sub>の3つに限定し、これを‘スリーコード’とした。左手で弾く音は、下記の和音に固定し、これを繰り返し弾いて覚える。



#### <楽譜 1 > < Score1 >

\* Cはハ長調の主和音、Fは下屬和音、G<sub>7</sub>は属七の和音であり、この3つのコードを使えば、和声のTonic、Subdominant、Dominantの3つの機能を満たすことができる。

尚、正しい表記はF / C、G<sub>7</sub> / Bであるが簡略化した。

##### b. 移調の方法を覚える

曲集などにハ長調以外の調性で載っている歌も多いが、C、F、G<sub>7</sub>のスリーコードで弾き歌いができるように、ハ長調に移調する方法を指導した。これを行えばスリーコードで弾ける曲を増やすことができ、大変有益である。但し「こどものうた」として可能な音域であるかに留意しなければならない。

##### c. 自分の「こどものうたノート」を作る

a, bの観点から、スリーコード伴奏で弾き歌いができる曲を提示し、学生は5線ノートに曲のメロディーと、メロディーに合うコードをスリーコードから選び記入する。歌詞も記入して、弾き歌いのための楽譜を完成させる。

「こどものうたノート」より実例

🌸 ぶん ぶん ぶん 



<楽譜 2> < Score2 >

3いぬのマーチ 



<楽譜 3> < Score3 >

5. 「スリーコード伴奏法」の実施と演奏例

「先生とお友だち」

吉岡治作詞 越部信義作曲

- ① 「こどものうたノート」にメロディー、コード、歌詞を記入する。

Handwritten musical score for the song "先生とお友だち" (Sensei to Tomodachi). The score is written on two systems of a grand staff (treble and bass clefs). The melody is in the treble clef, and the accompaniment is in the bass clef. The key signature is one sharp (F#), and the time signature is 4/4. The lyrics are written below the notes. The first system has four measures with lyrics: "せんせいと おともだち。せんせいと おともだち。". The second system has four measures with lyrics: "あくしやを しよ。 ギュ ギュ ギュ。". Chord symbols (C, G7, F) are written above the notes. There are handwritten notes in the top right corner: "・手塚チヲ", "・(にらめこっぺ)", "・お散歩".

<楽譜 4 > < Score4 >

- ② 演奏例 Step1

Printed musical score for the song "先生とお友だち". The score is written on two systems of a grand staff. The first system has four measures with chord symbols C, G7, G7, and C above the notes. The second system has four measures with chord symbols C, F, G7, and C above the notes. The bass clef part shows simple chord voicings.

<楽譜 5 > < Score5 >

最も初歩的な弾き方。

コード記号を見て左手がすぐに和音を弾けるようになるまで練習する。

③ 演奏例 Step2

<楽譜 6 > < Score 6 >

Step 1 では和音の塊が重く感じられるが、分割することで少し柔らかな印象になる。

④ 演奏例 Step 3

<楽譜 7 > < Score7 >

行進曲風の伴奏。歩き出したくなる感じ。左手はスタッカートで弾きたい。

⑤ 演奏例 Step4

C G<sub>7</sub> G<sub>7</sub> C

C F G<sub>7</sub> C

<楽譜 8 > < Score8 >

ピアノ伴奏の典型的な型。

⑥ 演奏例 Step 5 (応用編)

C G<sub>7</sub> G<sub>7</sub> C

C F G<sub>7</sub> C

<楽譜 9 > < Score9 >

3つの伴奏型が含まれ、即興的であり、かつ躍動的。

## 6. 「スリーコード伴奏法」を取り入れて

「スリーコード伴奏法」を導入し、学生はすぐに左手の和音を覚え、順調にレパートリーを増やしていった。コード記号を見るだけですぐに伴奏を弾くことが可能で、また、各自の好みやピアノの技能に合わせて、自由に発展できる柔軟性に魅力を感じたのだろう。中には、授業時間内にスリーコード伴奏で2曲弾けるようになった例もあり、取り上げる曲が増えるに従い、手応えを感じてきたようだった。

また、移調については、当初戸惑っていたが、決まった音程で上げたり下げたりするだけの単純な作業なので、すぐに短時間でできるようになり、その上、楽譜を書く作業を繰り返すことで、読譜力向上にも繋がった。コード付けも、学生同士で話し合ったり、弾いて確かめるなどの方法を覚えていった。

5月に始まる実習に、早速このノートを持参し、スリーコードによる弾き歌いを何曲も行い、園の先生に誉められたり、実習に行ってから新たな曲の弾き歌いを指示され、知らないコードもあったが、自分で調べて弾くことができたという報告も受けた。

コード伴奏に対する学生の意見には、個人差が見られる。コード伴奏法を知ったことで、「ピアノに対して前向きになった」「これからもコード伴奏で練習したい」という意見が出た。しかし一方では、コード伴奏の良さは分かったが、「やはり楽譜もしっかり読めるようになる事はとても大切」「コード伴奏を和音ではなく、より発展させて音楽性のある伴奏にしたい」といった、高いレベルを望む声もある。学生の意見は今後の発展の為の材料としたい。

## 7. 調査期間を終了して

期間終了までに約40曲の歌を「こどものうたノート」に記入し、弾き歌いを実施した。  
～学生の感想より～

・この1年は子供の歌を中心にやってきて、実習でも活かせるピアノが身についたと感じました。ノートを書いてみて確実に弾けるようになった曲が増えたとし、どんどん進められるから、家でも練習をするとき、重い気持ちではなくなって、練習に向かいやすくなりました。調を変えて書くのは少し難しかったけど、慣れてくるといくつずつずらせばいいか分かってスムーズにできました。ハ長調にした方が分かりやすいし、弾き易くて歌に集中できました。調を変えて、自分の声の高さに下げることがこの先使っていこうと思います。この1年で本の通りに弾くよりも、楽しく歌うことが大切だとやってみてすごく思ったので、この先も続けていきたいです。(Mさん)

・左手の譜読み(ハ音記号=筆者加筆)が苦手なのであまりピアノの練習は好きではなく、1年生の時はさぼり気味でした。でもノートに楽譜を写し、コードで弾くことで左手の譜読みが楽になったので、2年生ではピアノの練習をしっかりとすることが出来、レパートリーを確実に増やすことができました。また、コードだったので、自分で曲に合った伴奏を考えることも多くなりました。この曲にはどういった伴奏が合うだろうと考えることで自分のレベルに合った弾き易い演奏をすることができました。最初は全く分からなかったコードも今は何となく分かるようになったので、実際に現場に出た際、難しい伴奏があったら、コードに直して、弾いてみたいと思います。ハ長調に移調することでずっと弾き易くなり、歌をスムーズに歌うことが出来るようになりました。2年生の1年間は、より実践として使うことが出

来る技術を身に付けることが出来たと思います。(Sさん)

・コツコツ練習することの大切さを実感した一年でした。指使いが苦手な私は、曲を完成させるのに苦労しました。難しい曲に挑戦するのも大切だと思うけど、簡単だけど子供になじみやすい曲をたくさん弾けるようになったことは、かなり大きかったなあと思います。コードの練習や移調の練習もしました。私にはとても難しい作業でしたが、これができるとすごく便利で、色々なことに使えることを学びました。これから私が保育者になって、子供たちと一緒に歌いたい歌があったとき、その曲のアレンジや、(音域が=筆者加筆)高かった場合の移調も挑戦してみたいです。(Iさん)

終了時のアンケートより Q&A

Q：スリーコード伴奏を学んだことで、新たにできるようになったことは何か。

・コード伴奏に関して

A：コード記号を見れば、何の音かわかるようになった。

A：メロディーが弾ければ、即興でコードを付けて弾けるようになった。

A：自分で曲に合った伴奏を考えられるようになった。

・レパートリーについて

A：レパートリー数が増やせた。

A：子供になじみやすい曲をたくさん弾けるようになった。

A：確実に弾ける曲が増えた。

・移調について

A：移調を初めてやった。

A：音程を何度かずらせば調を変えられることを知った。

A：音域が合わない時に、移調するという方法があることを知った。

A：ハ長調に移調することで分かりやすくなり、弾き易くなって、歌に集中できる。

・「こどものうたノート」について

A：どんな曲でどんな歌詞なのか、見るようになった。

A：自分で書くことで音符の長さに気を付けるようになった。

Q：スリーコード伴奏を学んだことで、自分の意識や考えがどのように変わったか。

A：弾き歌いの、より実践的な方法を身に付けられた。

A：弾き歌いに対する苦手意識が減った。

A：コードは便利。

A：アレンジにも挑戦したい。

A：譜読みが減って、練習がしっかりできた。

A：1曲の練習時間が短くなって次の歌にどんどん進められるので、練習意欲が増した。

A：移調は便利でいろいろな事に使えると思った。

A：ノートに書くことで、その歌に対する親近感を覚え、練習意欲が増した。

A：楽譜から離れて楽しく歌うことが大切だと感じた。

## 8. さらなる検証

スリーコード伴奏法を用いて、子供の歌の弾き歌いは何曲できるのか、さらに検証を進めた。幼児音楽資料集「子どもの歌」を参照し、筆者自身も同じ方法で「こどものうたノート」を作成した。\*の曲は「子どもの歌」に掲載されていないが、よく歌われている歌なので表に加えた。

尚、スリーコードで伴奏できる曲であっても、他のコードを使用するのが一般的な歌や、オリジナル色が濃い伴奏の歌は除いた。

### a. ハ長調で弾ける曲 使用コードと曲名

C, G<sub>7</sub>

<表1>< Table1 >

おはようのうた	ちょうちょう	おたまじゃくし
ぶんぶんぶん	あまだれポットン	あまだれぼったん
カレーライス	かたつむり	かえるの合唱
わらいんぼコスモス	月	やまのおんがくか
あくしゅでこんにちは	ロンドン橋	すずらの鈴
トライアングルのうた	*かっこう	*メリーさんのひつじ
*こいぬのマーチ	*さよなら	*気のいいアヒル

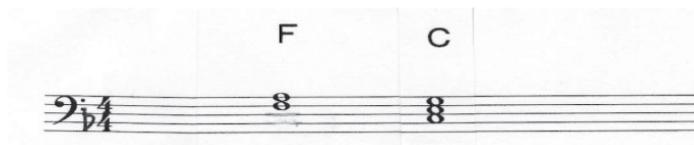
C, F, G<sub>7</sub>

<表2>< Table2 >

せんせいとおともだち	おはよう	おべんとう
はをみがきましょう	おかえりのうた	さよならのうた
たんじょうび	春がきた	たんぼぼさん
たんぼぼ	チューリップ	めだかの学校
こいのぼり	赤いとりことり	つばめになって
すてきなパパ	とけいのうた	雨降り行進曲
うみ	びわ	おつかいありさん
しゃぼんだま	ツッピンとびうお	アイスクリーム
さるかに	とんぼのメガネ	もみじ
ぼんぼこたぬき	インディアンがおる	きらきら星
きらきらおほしさま	夕やけこやけ	大きな栗の木の下で
虫のこえ	どんぐりころころ	まつぼっくり
いもほりのうた	くりのみぼうや	みかんの花咲く丘
たきび	富士山	やきいもグーチーパー
ゆげのあさ	北の国から	むすんでひらいて
クリスマスのかねが	おしょうがつ	たこのうた
雪	ゆきゆきゆき	ゆきのペンキやさん
まめまき	手をたたきましょう	みんなの広場
ももたろう	ゆかいなまきば	おすもうくまちゃん
もちつき	こぶたぬきつねこ	小ぎつね
おんまはみんな	アイアイ	どうぶつえんへいこう
おうま	もりのくまさん	うちゅうせんのうた
ぶらんこ	うさぎとかめ	おへそ
ねんどのえんぴつ	はたけのポルカ	あわてんぼうのうた
すうじのうた	ともだち讃歌	みんなでつくろう
ててて	アブラハムの七人の子	はしるのだいすき
かもつれっしゃ	ケンパで遊ぼう	

## a. 「スリーコード伴奏法」へ長調への応用

音域が合わないなどハ長調では弾き歌いが難しい歌であっても、へ長調の歌、またはへ長調に移調すればF（主和音）とC（属和音）の2つのコードを用いて、弾き歌いが可能になる。その際は、次の和音を使用する。Cのコードは変わらないが、Fのコードは一番下のC音を省略する。



&lt;楽譜 10 &gt; &lt; Score10 &gt;

へ長調の2つのコードで弾ける曲

使用コードと曲名

F, C

&lt;表 3 &gt; &lt; Table3 &gt;

ながぐつマーチ	大工のきつつきさん	ありさんのおはなし
ぞうさん	ライオンのうた	わにのうた
ふしぎなポケット	アビニョンのはしで	おおきなたいこ
きんたろう		

## b. 検証結果：「スリーコード伴奏法」で弾き歌いができる曲

&lt;表 4 &gt; &lt; Table4 &gt;

調 性	使用コード	曲 数
ハ長調	C, G <sub>7</sub>	21
ハ長調	C, F, G <sub>7</sub>	80
へ長調	F, C	10
		計 111

## 9. おわりに

調査期間終了時のアンケートにある「実践的な方法を身につけられた」という感想は、「はじめに」で取り上げた学生が身に付けたいと望んでいる項目をそのまま反映しており、また、「スリーコード伴奏」で111曲の弾き歌いが可能という筆者の検証結果を見ても、レパトリーを広げるといふ目的は達成されたと考えられる。

一方、「練習意欲が増大した」ことは、全くの想定外であった。導入当初、譜読みが減ることで、却って練習しなくなるのではないかという心配があったが、筆者の杞憂に終わった。さらに、「苦手意識が減った」「弾き歌いが楽しくなった」「アレンジに挑戦したい」といった感想から分かるように、弾き歌いに「余裕が生まれ」、「楽しさを感じるができるようになった」のなら、当初の目的以上の大きな成果を上げる事が出来たと言えるのではないだ

ろうか。

また、学生が作った「こどものうたノート」は、各自の「こどものうた」のレパートリーが一目瞭然であり、しかもメロディー、コード、歌詞を自分で書いたことから「親近感」も生まれ、保育現場でも活用できる歌集に仕上がった。

保育学科の学生は「こどものうた」を体を揺らしながら喜々として歌い、「こどものうた」のかわいらしさ、優しさ、ユーモアを理解する感性も豊かである。また、幼少期に出会った素敵な先生に憧れて、保育者への夢を持ち続けてきた学生も多い。

そんな学生が、憧れ続けてきた保育者になり、園児と共に、即興的な伴奏で、自由に楽しく弾き歌いが出来れば素晴らしいし、誰もがそうなりたいと望んでいる。「スリーコード伴奏法」は、この様な即興性のある弾き歌いの第一歩にもなり得る一手法である。

今回の調査では、コード伴奏を初めて弾く学生のために、スリーコードに限定し和音も固定したが、さらに進めることができるなら、メロディーと伴奏の導音を重ねない事や、ベース音の扱いを考えるなど、守るべき事項を学んでいくことも必要である。

そして、スリーコードから発展し Dm や Em 等の他のコードを取り入れれば、和声的な彩も増し、レパートリーをもっと増やすことができる。

今後もコード伴奏の指導法を研究し、弾き歌いの技能の確立に役立てていきたい。

#### 引用資料 参考文献

常葉学園短期大学紀要 第 43 号

常葉学園短期大学幼児音楽研究会編 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児音楽資料集 子どもの歌